

平成19年度協力会事業を進めるにあたって

本会は設立以来丸6年、事務局も3年が経過しました。お蔭様で、現在215社の企業会員、10人の個人会員に在籍いただいております。これもひとえに会員の皆様の永年にわたる変わらぬご支援、ご協力のたまものと深く感謝しております。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

しかしながら6年も経ちますと大学、企業、協力会を取り巻く環境、それぞれの思い、等も当然変化してきます。会員の皆様に今後とも「協力会に入っていて良かった」と実感して頂くために、現状への注文・不満の「草の根調査」との観点より昨秋、手始めに資本金0.5～10億円の会員企業40社あまりを協力会コーディネータの市橋、船木が訪問させていただきました。ご多忙の中、対応いただいた会員の方には紙面を借りてお礼を申し上げます。この訪問にて寄せられた真摯なご要望には出来るだけきっちりと、早期に対応したいと考えております。

面談で出された要望、今後の対応、事務局からのお願ひをまとめてみました。

事業全般について

各企業自身の業務分野に密接に関連する技術の改善、将来動向に関する関心は非常に高いが、異業種との交流や単なる技術講演には関心が薄い。一方、自社社員向け教官の出張講義や個別指導、課長クラス対象のイブニング勉強会等の開催には希望が多い。さらに、大学研究室や公的研究機関の見学機会を持ちたいとの要望が多い。

このような傾向より、身近な技術テーマをきめ細かく勉強したいという意欲を満たす企画が必要と判断し、産学官連携センターと具体策の検討の真っ最中です。総会の席ではご紹介出来る予定です。

情報の内容、伝達手段について

会報は社内回覧されている企業も多いのですが、メール配信情報の社内周知度はそれほど高くないと思われます。また、内容についても、当然ながら自社業務に密接に関連する情報を多く、との声が高いです。今後、特許出願情報以外の一般情報については各企業3名まで、直接配信させていただきます。また、「新規事業立ち上げ」と「特許」の相談会開催日の案内、会報発行日をメールでお知らせします。

また、企業訪問も続けていく所存ですので、ご協力のほどを、お願ひ申し上げます。

(文責：事務局長 森田順一)

協力会事務局より

今号の内容は「産学官連携センター」特集となりました。発足して間もなく、関係者はバタバタしております。研究協力会事務局も18号館に居を構えることになる予定です。

会員の皆様が訪ねて来られた時の対応が、センターのスタッフや学内関係先と協力して迅速、効率的に行えるようになると考えております。まずは、一度おいで下さい。

<入会申込・お問合せ先>

名古屋工業大学研究協力会 事務局

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学17号館152室
事務局長：森田 順一
Tel, Fax: 052-735-5538
E-mail: kyoryoku-pal@ml.nitech.ac.jp

*研究協力会HPもご覧下さい。

<http://partner.ccr.nitech.ac.jp/>

行事案内・入会案内・事業報告は、このサイトで見ることができます。
*ご担当者や連絡先(Tel, Fax, E-mail)が変更になった場合は、ご一報ください。

発行 名古屋工業大学研究協力会事務局
平成19年 4月 1日発行(年3回発行)

会員の皆様に

桜も終わり新緑の候となりましたが、名古屋工業大学研究協力会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は、本学の教育と研究に関わる活動に、格別のご理解とご協力を頂き、厚く感謝致しております。

さて、平成16年に法人化を迎えて整備しました本学の産学連携の窓口である「テクノイノベーションセンター」をより強固な連携推進の母体とするために、今年から計測分析部門を独立させ、大学の研究成果の知財化を中心に共同研究の推進を図る知財活用部門と、企画とともに一元的に契約事務支援を行う企画・管理部門からなる「産学官連携センター」として発展的に制度変更を行いました。このセンターでは、従来行っていた産学官連携に向けた諸活動を一層強化すると共に、特に中堅企業と若手教員の連携強化を具体的なターゲットとして掲げていくことになっています。新に企画されている活動の一つとして、中堅企業の方々に具体的な技術シーズを提供することを目的とした小規模のフォーラムの開催を考えています。毎回、具体的に取り上げるジャンルを事前にお知らせした上で、それに関心をお持ちの企業の方々にお集まり頂いて、若手の教員の提示する提案や紹介について濃密な意見交換をしようという企画です。

名古屋工業大学長 松井信行



名古屋工業大学長
松井信行

従来から「大学の敷居が高い」というご批判に対して、私たちは随分努力をして参りましたが、今回の新企画でももっとも敷居を低くしようという目的を持ってやっというと考えています。研究協力会発足当時から、その活動の目的は「産学連携への草の根活動」と捉えてきていますが、もっとも草の根的活動に徹していきたいと考えています。

皆様からのご協力のおかげで、名古屋工業大学は産学連携を積極的に進めている工業大学との認識が定着しつつあり、政府の総合科学技術会議に文部科学省から提出された「国立大学法人等の科学技術関係活動に関する調査結果(平成17事業年度)」に依れば、教官一人あたりの産学連携共同研究金額では国内2位につけています。国内有数の製造業の集積地域に位置する工業系の単科大学として、産業活動の一層の活性化とそれによる雇用の促進に向けて、私たちは教育を通じての人材育成とそれを支える研究活動を通じて十分な社会的責任を果たしていきたいと考えております。変わらぬご支援をよろしくお願ひ致します。

研究協力会第8回総会の特別講演会

テーマ：「極小無線認識ICチップが拓くユビキタス社会
～技術屋の執念と安心・安全の社会作り～」

講師：日立製作所 セキュリティ・トレーサビリティ事業部
主管技師 神藤英彦氏

日時：平成19年6月1日(金)

時間：17:00～18:15

場所：名古屋工業大学 講堂

目次：会員の皆様へ、学長挨拶 ……1 産学官連携センターのご紹介、平成19年度事業開催予定…2・3
今年度事業を進めるにあたって、他 ……4